

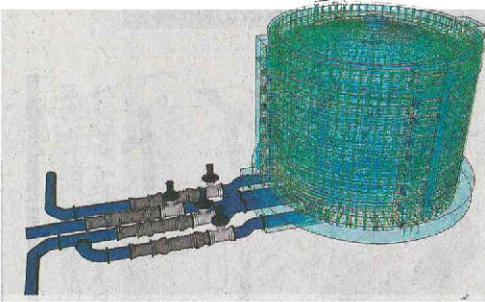
安部日鋼工業、水道施設管理で新システム

MR技術を活用

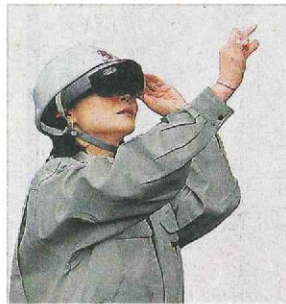
2月にも 実用化 メンテナンス効率化

プレストレストコンクリート（PC）製造の安部日鋼工業（岐阜市六条大溝、井手口哲朗社長）は、現実の風景にデジタル映像を重ね合わせて投影する複合現実（MR）技術を使った水道施設の維持管理システムを導入する。ゴーグル型のウェアラブル端末で水道施設の過去の施工やメンテナンスの履歴のデータが可視化でき、メンテナンス作業の効率化を図る。10月に実証実験を行い、来年2月から実用化を目指す。メンテナンス業務だけでなく、今後は建設現場にも展開する。

（河合修）



ウェアラブル端末から見える画像（安部日鋼工業提供）



ウェアラブル端末を装着し、指で操作する社員（同）

システムは、インフォマティクス社（川崎市）製のアプリケーションを採用。構造物の図面や施工メンテナンスのデータを取り込み、ウェアラブル端末に実寸大で重ね合わせる。端末には、外から見えないコンクリート内の鋼線や

埋設した配管などを表示。ひび割れの箇所などは指でなぞるだけで電子データに記録できる。過去の補修履歴や補修場所を重ね合わせることでも可能で、補修後の状況を継続的に把握し、異常の早期発見につなげる。建設現場では、実際の設計図を投影することで、作業がイメージしやすくなり、施工時間の短縮やミス防止の効果が期待できる。パソコンやタブレット端末から遠隔で指示することも可能で、経験の浅い作業員

の負担軽減にも役立てる。同社の担当者は「MR技術を導入し、生産性の向上とともに、技術者の育成にも生かしたい」と話している。